

第3号

すだち

発行：
高次脳機能障害
徳島家族会
住所：
徳島市上助任町大坪
173-1
電話：088-655-9105

徳島県高次脳機能障害講演会で岩垣会長が報告

9月11日17時30分より徳島大学医学部長井記念ホールにおいて、徳島県高次脳機能障害講演会「支援ネットワークの現状と今後の取り組み」が、障害関係者をはじめ医療関係者ら130名が参加し開かれました。

講演会は二部構成で広廣教授の司会進行で進められ、第一部は、「徳島県の取り組みについて」と題して徳島県精神保健福祉センター長の石元康仁氏の講演があり、続いて「中核支援施設の活動」として大学医学部神経内科医和泉唯信氏が、また家族会の取り組みについて高次脳機能障害徳島家族会会長岩垣啓路氏が報告を行いました。

第二部では、「高次脳機能障害と就労・広島の取り組み」として、広島県立障害者リハビリテーションセンター高次脳機能センター長、丸石正治氏の講演、「全国の現状と課題」と題して、国立身体障害者リハビリテーションセンター学院長中島八十一氏の講演がおこなわれました。

また、講演会場ロビーでは、家族会が準備した、すだちの即売も行われました。

◇◇◇家族会親睦昼食会◇◇◇
カレー作りを楽しみ満腹で交流

家族会では、7月6日、大神子海岸キャンプ場で10日族24名が参加し、みんなでカレー作りに挑戦し、出来上がったカレーで満腹、当事者同士の交流もあり、また会に対する要望もあり有意義な懇親交流会議もたれました。また交流会議には、北条氏に家族ぐるみで参加していただきアドバイスを受けました。



(大神子海岸で全員集合)

家族会愛称「すだち」に

季刊誌愛称も「すだち」として発行

高次脳機能障害徳島家族会の愛称を募集し、第2回定例会議で愛称有力3候補の中で「すだち」が徳島の家族会に最もふさわしい愛称だとして決定されました。同時に家族会季刊誌の愛称も「すだち」として発行する事が確認されました。



ようこそ!!

第2回家族会総会案内

障害を抱える家族の「悩みを話せる場所や、適切な情報がほしい」などの思いがひとつになり、また徳島大学病院の大きな協力を得て家族会が発足し早一年がたち、会らしい体裁が整ってきたところです。当事者会員の情報交換の場になる家族会にしたいと願い、活動はじめています。

つきましては、下記の日程で結成一年の祝いを兼ねた総会を開催します。

＝ 記 ＝

日時：2009年1月25日(日)

午前10時～

場所：徳島県障害者交流プラザ
(徳島市矢三町)

悩み・要望を家族会に みんなで考え、行動しよう!!

広げよう・地域に根ざした・支え合いの輪 270名が集う

2008 in いわて 第8回脳外傷友の会全国大会



10月4日、いわて県民情報交流センター(アイーナ)において第8回脳外傷友の会の全国大会が開かれました。徳島の家族会は8月に準会員として全国組織に加入していますが、今大会には組織としての参加は困難なため、個々会員さんの自主参加として当事者家族の3名が参加しました。3日の夜に懇親交流会があり、翌日は大会記念式典が開かれ、続いて二部形式の集会がありました。

第一部では、大会で表彰された方からの報告などあり、北京パラリンピック自転車競技金メダルリストの元競輪選手石井さんが家族と共に紹介されました。また家族会組織はこの一年間に徳島を含め9県で確立、その中で秋田、山形、福井から活動報告が、支援コーディネーターからも報告されました。

第二部は厚生労働省地域移行専門官武田牧子氏から「障害者自立支援法の目指すもの」と題して講演があり、障害者の自立と共生の地域社会作りが強調されていました。

最後に高次脳機能障害と家族の自立支援としてシンポジウムがおこなわれました。来賓として、厚生労働省達増氏、岩手県副知事、盛岡市保健福祉部長等の出席。アトラクションとして地元小学生50名による合唱がおこなわれました。

来年は広島、再来年は奈良での開催が予定されています。(写真/全国大会の様子)

大会アピール(盛岡大会)

第8回脳外傷友の会全国大会では、大会アピールが全員で確認され、行政に対する要望、活動の決意が確認されました。アピール要旨は次の内容になっています。行政への要望：①障害者自立支援法の改正作業で、高次脳機能障害を支援対象として位置づけを明確化。②福祉サービスの利用における行政指導。③相談支援拠点の早急な設置④支援コーディネーターを専任として包括支援体制。⑤高次脳機能障害の実態調査を要望する。昨年度は、高次脳機能障害当事者団体のない10県で当事者家族会の結成に役割を果たした。今年は、後天性脳損傷の子供を支援するセミナーを横浜で開催し、復学・進学などにおける教育環境整備の問題を提起する。高次脳機能障害者が住み慣れた地域で当たり前の生活をし、生きがいを持って生涯を全うできる仕組みをつくるために「あきらめない」「ねばり強い」活動が求められています。全国の皆さんと共に手を携え、英知を結集して邁進していくことをここ東北の地において誓います。(脳外傷友の会第8回大会参加者)

「脳外傷友の会」に参加 準会員として活動

高次脳機能障害徳島家族会は、「脳外傷友の会」の名称で高次脳機能障害者の全国支援活動を行っている全国活動組織に申込みを行い準会員として活動していくことになりました。全国の仲間との情報交換と当事者間の交流の場として、悩みを打ち明ける場、障害者が社会参加できる場として参加し活動して行きたいと考えています。(目的条項要約)

第3条目的：「略：脳に損傷を負い、後遺症として高次脳機能障害を持った者及び：略、それぞれの障害についての正しい知識の普及と情報の提供を行い、障害者本人の社会復帰、社会参加の促進を図り、略：高次脳機能障害者とその家族が安心して社会生活を営める環境を築略：福祉活動、社会教育活動、人権の擁護又は平和の推進、職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動、」(各会員には友の会定款配布済み)

**障害の実態
を訴える①**

おはようつくしま放映

「医療と福祉の谷間で～高次脳機能障害」

9月9日、四国放送テレビで「医療と福祉の谷間で～高次脳機能障害」が放映され、家族会から岩垣会長と岩垣祥子さん、医療機関から永廣徳島大学医学部教授（家族会顧問）が出演し、障害の実態を訴え、また家族会の発足、活動なども話しました。

はじめに、永廣教授が「外見上見えにくい障害のため全国的に対応が遅れた。平成18年に国が徳島大学病院を徳島県の拠点に指定し、その啓蒙、支援体制が動き出した。障害で記憶が一番深刻なのは、覚えられない、忘れやすいということ。また注意力散漫になったり、同時に2つの事ができにくくなる等人によって千差万別である。障害が社会に理解され、当事者が社会に出て独り立ちすることが最終の目標だ。」と話されました。

次に岩垣会長は、「交通事故にあい1ヵ月意識不明、4ヵ月入院治療し、4年間リハビリ訓練を行った。残った障害は記憶と視野が狭くなったこと。リハビリ中は毎日作文をワープロで打ち、社会に出たときに役立てたい、記憶を呼び戻したいとの思いがある。今日までに4度仕事場を変えてきた。今も早く仕事につきたいと強く思う。ハローワークで紹介されても、記憶に障害があるという面接もなく途端に断られる。面接だけでもしてほしい。」と訴えました。

**障害の実態
を訴える②**

南部総合県民局保健福祉環境部主催

高次脳機能障害の実態を訴える

9月10日、阿南保健所において、南部総合県民局保健福祉環境部主催の講演会があり、高次脳機能障害徳島家族会の三木副会長が出席し、高次脳機能障害者への理解と、徳島家族会の発足・活動への支援を訴えました。

三木副会長は、目に見えない障害に苦しむ当事者、家族の看病の実態と、今年1月にそうした患者を抱える家族が、情報の共有と交換交流の場として家族会を結成し、定例会議の開催、障害の学習、レクリエーション活動内容の報告と、会の愛称を「すだち」に決定し歩み始めたことを報告し、支援、活動へ協力を訴えました。

事業実行委員会活動 「すだち」収穫と財政活動

9月6日家族会事業実行委員会（岩垣祥子委員長）は、11日「支援ネットワークの現状と今後の取り組み」講演会場での販売活動に向けて、8名が勝浦町の農家に出向いて40キロの摘み取りを行いました。すだちの収穫作業がはじめての人もあり、農場での収穫の楽しさを満喫しました。

9日には会の愛称を知らせる文を同封した袋を200袋準備し、11日の講演会会場で販売しました（一袋200円）。ロビーに家族会の横断幕を掲げ、手作りのすだちマスコットを置いて、来場者に家族会の活動を訴えました。事業実行委員会は継続して活動を行う予定です。

（写真/すだちの販売をする家族会）



みんながちがって、 みんな一緒 ＝障害者権利条約の批准を＝

先日、「みんながちがって、みんな一緒」「障害者権利条約」(日本フォーラム発行)という冊子を薦められて入手しました。これは、国際連合が、数次にわたり特別委員会を組織し、各国の代表が討議を重ねて成案化し、国連総会で2006年12月に裁決、2008年5月に効力を持つようになった国際条約＝「障害者権利条約」の解説書なのです。

こういうものがあるということを知り、はじめて知って、高次脳機能障害徳島家族会に係わっている私としては、忸怩たる思いがあります。国連の人権条約は、これが9番目ということも知りました。この9つの人権条約の中で、「人種差別撤廃条約」や「女性差別撤廃条約」というのは、聞いたことがあるような気がします。

さてそれでは、この条約はいったい誰のためのものなのでしょう。障害者といわれる人は、世界的には人口10人に1人(10%)、日本では約724万人(身体障害者366万人、知的障害者55万人、精神障害者303万人)で人口の6%だそう

私たちの周りに暮らしていて、障害者を含むすべての人が、地域社会を構成し、それぞれが社会の一員として、生活をとみにしているのです。しかし、障害ある人にとって、生きていく上でさまざまな制約を受けているのが現実です。と同時に、障害者に対する偏見や差別はなくなり、極めて住みにくい社会なのです。

ここで冒頭にある、「みんながちがって、みんな一緒」がこの条約のめざすところなのです。障害者の方も人間として、その人権が尊重され、みんな明るく生活しようというように社会そのものを変えていくことなのです。そのための条約なのです。

日本も2007年9月、国連本部において、この条約を高村外相が署名しました。その後1年あまりを経過しましたが、まだ国会で批准されていません。批准するためには、国内の法律制度を、条約の規定に合うように、変えていく必要があります。まだまだ国内では障害者に対する法整備は十分ではありません。しかし今こそチャンスなのです。一刻も早くこの条約を、批准してください。

文／岩垣啓路

家族の要望を集約

～支援センターと協議～

家族会では、第2回定例会議で確認し個々会員が持つ行政、医療機関等への要望を集約し支援協力機関と協議してきました。要望は内容別に事務局で集約し会への要望も含めて23項目にまとめました。そして実行可能な事柄については、懇親交流会、物品販売活動など実行してきました。

なお行政への要望については、支援協力者の助言を受け、行政窓口別に要望整理、要望趣意書を整理し折衝をして行くことにしています。



今後の活動予定

- 11月15日 第4回家族会定例会議
2009年
1月25日 第2回高次脳機能障害
徳島家族会総会

《事務局より》 家族会準備会発足から一年、結成からは満10ヶ月が過ぎ、家族会も、その体裁を整えてきました。季刊誌も3号から「すだち」として発行を行うこととなり、より充実した季刊誌にしていくため会員皆さんからの、療養生活、日常生活についての原稿などをお寄せください。